

1 本年度の重点教育目標

歴史の流れを受け継いで 未来に羽ばたけ 白尻の子

2 本年度の取組の重点

・確かな学力の向上（学びづくり） ・豊かな心の育成（心づくり） ・健康な心身づくりの推進（体づくり）
・ふるさと教育の推進 ・地域・保護者との連携 ・異校種間の連携・接続

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価結果 | | 学校関係者評価 | | |
|-------|---|--------|---|----------|----------|-------------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見（改善策など） |
| 学びづくり | 1 基礎的・基本的知識・技能の確実な定着を図る指導法の工夫に努めている。 | a | | A | | |
| | 2 思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業改善を推進している。 | b | 考えさせる問題，話し合いをさせる問題を児童に多く取り組ませていくことが大切である。 | A | A | |
| | 3 自己の課題を克服しようとする学ぶ意欲を育て，家庭学習の習慣化の推進・充実に努めている。 | a | ここ数年の「やりきる」指導により，家庭学習の意識は高まってきた。 | A | A | |
| | 4 本・ICTを活用する習慣や読書の習慣を身に付けさせる取組を推進している。 | a | 図書担当を中心に様々な取組が見られた。ぜひ継続していきたい。 | A | A | |
| 心づくり | 5 考え・議論する道徳の推進 | a | | A | | |
| | 6 いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止活動を行う。 | a | 児童会活動でも積極的な活動が行われた。児童が楽しいと思える学校にできるよう、全職員で取り組んでいきたい。 | A | A | |
| | 7 共感的・受容的な児童理解に基づき、児童が自尊感情や自己肯定感を高めることのできる教育活動を推進する。 | b | 児童の言うことに耳を傾け、受け入れることを基本に児童理解を図ってきた。児童が成就感を得られる言葉がけをさらに意識することが必要である。 | A | A | |
| 体づくり | 8 進んで運動に親しむ態度や体力の向上を図る。 | a | | A | | |
| | 9 学校安全計画に基づく防災、安全教育を推進する。 | a | | A | | |
| ふるさと | 10 教科・他領域との関連を意識し、問題解決的な学習・体験的な学習の充実を通して「習得・活用・探究」を図る指導の充実に努めている。 | a | | A | | |
| 連携 | 11 地域とともにある学校の実現に取り組む。 | a | | A | | |

| | | | | | | | |
|-------------|---|-------------|---|--|---|---|--|
| 接 続 | 1 | 小中連携の充実を図る。 | b | 小中の接続にかかわり、引継ぎをしっかりと行うことができた。その後の交流を充実させるすべを検討する必要がある。 | A | A | |
| | 2 | | | | | | |
| そ の 他 | 1 | 業務改善に取り組む。 | a | | A | | |
| | 3 | | | | | | |

■ 自己評価達成状況

| | |
|---|-----------------|
| a | ほぼ達成できた (8割以上) |
| b | 概ね達成できた (6割以上) |
| c | 十分ではない (4割以上) |
| d | 達成できなかった (4割未満) |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

| | |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。 |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。 |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。 |